



八束のひろは

～八束公民館報 第19号～

発行：松江市八束公民館運営協議会 〒690-1404 松江市八束町波入2060 Tel(0852)76-3663 Fax(0852)76-3669



操法大会 開会式



カメラリア隊



操法大会 活動の様子



消防団員 募集活動



第24回全国女性消防操法大会出場
(於：神奈川県横浜市)



3番 太田隊員



女性消防分団「カメラリア隊」の活動について

松江市消防団女性分団「カメラリア隊」

八束公民館 主事 太田美喜子

松江市消防団女性分団「カメラリア隊」は、平成20年度に結成され、現在22名の団員で活動しています。

通常の活動は、予防・啓発運動でイベント時の防災訓練や子供達への防火教育、救急法講習会での指導などです。

昨年11月には、「第24回全国女性消防操法大会」に出場しました。一年半前から基本の動きや規律、俊敏性など厳しい訓練を重ね、9月には鳥取県代表の八頭町との合同訓練で良い刺激を受け、更に集中して訓練に励みました。思うような動きが出来ず悔し涙を流したりもしましたが、皆で励ましあいながら当日を迎えました。会場の「横浜赤レンガ倉庫広場」には全国から集まった選手、応援団の熱い思いが入り交じりとても緊張した空間での大会でした。

緊張の中あつという間の操法披露でしたが、自分の動きを一つ一つこなして練習の成果が出せたと思います。上位入賞はできませんでしたが、皆が一つになり大会に挑めたこと、とても嬉しく思いました。最後まで頑張れたのは団員、家族、職場など周りの人達のサポートのおかげと思っています。

このような貴重な体験が出来たことに感謝し、これからも活動を続けていきたいと思えます。今後は新しい活動としてカメラガードの練習をしていく予定です。私たちの活動で少しでも防火・防災に興味を持っていただければ嬉しく思います。

年々災害が多くなっていますが、自分や周りの人を守るための知識を身に付けておくことはとても大切です。団員のほとんどが仕事と家庭を両立させながら活動しています。「カメラリア隊」の活動に興味をもっていました。ぜひ一緒に活動しましょう。

なお、下のQRコードから活動PR動画をご覧ください。



特集
.....
第7回
座談会

『お寺カフェ』



話して・笑って・お茶して
心豊かに、ほっこりと

町内のボランティア団体が、元気高齢者支援として始めた「お寺カフェ」が4周年を迎えました。月に一度の会ですが、毎回40〜50人の皆さんが参加され大盛況です。
本日は、関係者の皆さんにお集まりいただき「お寺カフェ」について対談しました。



写真：左二人目から
桑垣三枝子さん、桑嶋幸治住職、渡部みはるさん、林真菜実さん

太田：波入地区の臨濟宗・観音寺で、月に一度（第一週の水曜日）手作りお菓子や抹茶などを提供する「お寺カフェ」が4周年になりました。開催のキッカケや取り組み内容について、お聞かせください。

「お寺カフェ」開催の経緯

渡部：以前、旧町保健福祉総合センター「ちとせやつか」で、食生活改善推進員の仲間と、高齢者を対象に「お茶会」を開催していましたが、「ちとせやつか」が閉鎖となったため、皆さんが出かけやすい場所として、観音寺の前任職にお願いしたところ、快く受けていただきました。ボランティアの皆さんも快く受けていただきスタートすることができました。



渡部みはるさん
(ボランティア団体代表)

桑垣：前任職がお元気な時、お寺を開放してください、もったいない気持ちでした。毎回3分間法

桑嶋：先代の住職が、地域の皆さん

に少しでもお寺に足を運んでもらいたく、社協の方と話し合っ
て実現しています。地域の皆様、特に高齢の方は毎月楽しみにされて
います。

林：「お寺カフェ」は、地区や年齢

に関係なく誰もが参加できる場
所であり、普段なかなか会えない
人とも話をする事ができ、
社会参加につながる場所となっ
ていると感じます。毎月大勢の
参加があり、楽しみになってい
ると感じます。

「お寺カフェ」の内容

渡部：お寺に出かけていただき、人
と出会い、話をしたり、笑って
もらうことが大切かと思いま



林 真菜実さん
(市八束支所保健師)

す。多くの皆さんがお集まりで
すので、前日にはボランティア
の皆さんと一緒にお菓子などを
作り提供しています。お話だけ
では退屈でしょうから、毎回催
し(出し物)を企画しています。
友達や公民館サークルの皆さん
に協力いただきながら続けてい
ます。

林：いろいろな方に、健康管理の必
要性について感じてもらう良い
機会になっています。様々な地
域活動に参加することで保健師
の存在を知っていただき、困っ
たときに相談してもらえたらと
思います。

桑垣…月々の催しの企画も定着しつ

つあり、渡部代表の幅広い人脈にいつも感心しつつ協力しています。私は看護師として長年病院に勤務していましたが、市八

東支所から保健師さんが来られ、血圧測定などの健康チェックや、市社協からは健康に関するお話など、皆さん気軽に受けられています。良い取り組みですね。

太田…高齢化が進み、介護保険制度

も定着し、在宅での介護も多くなりました。一方、元気な高齢者も多く各地区では、「なごやか寄り合い事業(どげな会)」を定期的に開催しています。この「お寺カフェ」には町内はもとより、メディアに取り上げられたこともあり、その評判を聞き町外からも参加がありますね。

「お寺カフェ」の魅力

桑嶋…お寺というイメージが、一方的なものではなく、楽しく参拝



桑嶋 幸治住職 (臨済宗 観音寺)

できる良い意味での開放的な観音寺でありたいですね。寺は、いつも賑わっていることが、本来の役割かと考えます。

渡部…住職の法話がありがたいです

ね。法話がない時は「口の体操」などで、座ってできる体操などができると思いますね。「お寺カフェ」参加者は女性の方がほとんどですが、男性の皆さんも参加されると良いですね。楽しいですよ。



桑垣三枝子さん (ボランティアスタッフ)

桑垣…多くの人々が集まりの中で、

楽しく笑って過ごすひとときが元気のもとと思います。

林…普段お寺に行くのは、何か特別なことがあるときなので、お寺

でカフェをすることが新鮮で、素敵な取り組みであると感じます。普段の生活の中で、楽しみや出掛ける場所がないと、引きこもりがちになるため、趣味や生きがいを持ち、社会との繋がりを大切にしてほしいです。軽

い体操なども取り入れると良いですね。メリハリがついて心にも身体にも良い影響をもたらしてくれると思います。

太田…この「お寺カフェ」も4周年に

なりましたが、毎回多くのボランティアの皆さんに協力いただいています。頭が下がりますね。



すばらしいボランティア活動

桑垣…渡部代表のリーダーシップに

負うところがとても大きいと思います。カフェで使うエプロンやキャップは代表の手作りで、お菓子作りなども教えてもらっています。私自身Uターン組で、色々な方と交流ができ、楽しく

参加させてもらっています。

渡部…この「お寺カフェ」がスムーズにできるのは、ボランティア

の皆さんのお陰だと思っています。大変ありがたいです。

林…ボランティアの方が中心となつて企画・運営されており、自身

の健康や生きがいにも繋がっているのではないのでしょうか。

桑嶋…高齢になつても元気に過ごして

ほしい、との思いからボランティアの皆さん頑張っておられると思います。開催にあたっては常に皆さんにお世話になっています。私は何もせず、いつも笑っているだけです。(笑)

太田…渡部代表をはじめ多くのボラ

ンティアの皆さんの手作りで運営されています。今後も、地域の皆さんが生き生きと過ごしていただけるよう、市並びに市社協・公民館も一緒に協力しながら取り組んでいきたいと思えます。ありがとうございました。



太田美喜子主事 (八東公民館)

(※四月・五月は休会)

中村元博士が残した『慈しみあふれる言葉』を紹介します。

松江市出身でインド哲学・仏教学の世界的権威、中村元博士が残した慈しみあふれる言葉を、八束町中央の「八束複合施設」正面玄関東横にある掲示板で毎月紹介します。掲示内容は「中村博士自身が述べた言葉」の中から、中村元記念館の笠原愛古学芸員が選び、公民館で書道を学ぶ「中央書道サークル(橘淳子代表)」のメンバーが中心となって毛筆でしたためます。



(左から) 蔦谷宏支所長、笠原愛古学芸員、橘淳子代表、池田均館長

中村元のことば
和の精神

令和二年三月掲示

【解説・出典】
中村元が、松江の伝統精神をあらわしたことば。
『松江は出雲の国の中心。この地域は古代においては日本の表玄関だった。大陸からは一番近く、舟に乗れば出雲に流れ着いたのだから。文明の発祥の地、神々の国とも言われている。そのころからの伝統が現代文明の中で生き続けているのが出雲だ。』
出雲と大和王朝が並んで対立していたが、ある所で話し合いで結ばれて今日の日本の国の礎となった。和の精神が実現された結果で、聖徳太子が十七条憲法の初めに「和をもって尊しとなす」としているが、その精神は出雲の神々の時代からあったと言えるだろう。『この伝統精神を新しい文明のフレームに生かし、尊重しながら進むことで、松江の精神が日本の中で指導的な役割を果たし、範を示す時代が来ると信じている。』(松江市名誉市民講演要旨、平成元年四月四日付、山陰中央新報)より抜粋。

中村元のことば
**やはらぎ
よしみ
さかえ**

令和二年二月掲示

【解説・出典】
中村元が、「昭和」から「平成」に元号が替わる時に、準備していたことば。
当時のメモには、中国の古典に由来する「平成」ではなく、万葉集や源氏(物語)などの古典名とともに「やはらぎ」「よしみ」「さかえ」と記されている。
『論語などのように人間の道を説いているものなら意味があるかもしれませんが、古事記でも万葉集でも、聖徳太子に関するものでもない、むしろ日本の古典からも選んだらどうかと思う。皆がいいと思う和語があれば、それでもいいと思う。』(月刊住職、一九八九年二月号)より。

中村元のことば
**東洋のこころ
温かなこころ**

令和二年一月掲示

【解説・出典】
中村元が、生涯をかけて探求した東洋思想の奥義。
『私は長い間、東洋の思想・精神的伝統の探求をしてまいりました。それを貫く「東洋のこころ」というようなものがあるとすれば、それはいったい何か。』
『そしてその「何か」とは、ひとり東洋のみのものではなく、普く、広く、世界の人々にいきわたっているものに違いない。そのような確信をもつものです。その何かこそ、「温かなこころ」ということではないかと思うのです。』(温かなこころ)より。

あ
と
が
き

「お寺カフェ」会場の観音寺では、毎年「弘法大師(空海)祭」が、命日にあたる4月21日(旧暦3月21日)に行われます。由来は、江戸末期の天保六年(仁孝天皇・一八三五年)に四国より勧請(注釈)し、八十八体の大師像を順次町内各堂庵に安置したこと、民間の大師信仰が盛んになりました。大正から昭和の中頃までは、お寺や各地区のお堂に祭られた弘法大師さんの札所巡りに、県内外から大勢訪れ賑わったそうです。
今年の4月21日(火)は、今上天皇ご即位後初の「お大師さん祭」です。家族や地域の安寧と幸福を願い、一八五年の歴史ある札所巡りはいかがですか。(池)
【注釈】勧請とは、神仏の分身・分霊を他の地に移して祭ること。